

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	中国語の三人称代名詞主語・主題の顕在についての考察
Auther(s)	白, 叡
Citation	ニダバ , 48 : 50 - 59
Issue Date	2019-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047429">http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047429</a>
Right	
Relation	



## 中国語の三人称代名詞主語・主題の顕在についての考察

## 白 叢

## 1. はじめに

中国語は日本語と比較しても、代名詞主語の使用される頻度が高い言語である。日本語、イタリア語やスペイン語などの言語とは異なり、代名詞主語の出現が動詞の形態的情報に頼るのではなく、文脈に依存している。日本語にも中国語にも三人称代名詞が存在し、日中両言語における三人称代名詞の意味と使い方はほぼ同じである。しかし、実際の運用では、三人称代名詞の意味と使用範囲は同様ではなく、異なるところが意外に多い。

(1) a. 没等他把话说完，女演员群里猛然站起一个梳着两条大辫子，脸蛋又圆又红的姑娘，用高嗓门喊道：“我不同意指派，没有这么指派的”。

b. 話し終わらないうちに、女の出演者の群から、長いおさげ髪の丸くて赤い顔をした娘が猛然とたちあがって、カン高い声を上げた。「わたし、指名に不賛成!そんなやりかたってありますか」。

(徐 2010: 66; 下線は筆者作)

(2) a. 张三一个人在教室做作业，他想：“有人帮我做多好”。

張三 一人 で 教室 する 宿題 彼思う いる 人 助ける 私 する はるかに よい

b. 張さんは一人教室で宿題をしていて、「誰か手伝ってくれる人がいたらなあ」と思った。

(柴田 2013: 38; 下線は筆者作)

(1b) においても、(2b) においても、日本語では連用形を使い前後節を繋げている。一方、中国語では、(1a) の代名詞主語は省略されているが、(2a) の代名詞主語は顕在化している。徐 (2010: 66) は「連続を表す従属節は従属度が低く独自の主語をもてないため、日中両言語ともその主語は常に主節と一致して、顕在しないのである。」と述べており、中国語は日本語と同じように、主語が省略してもテキストの連続性は保たれる、と提唱している。しかし、(2a) では (1a) と同様に連用形を使い、従属度が同じ場合においても、日本語では代名詞主語「彼」(あるいは主題「彼は」)を省略できる。しかし、中国語では代名詞主語「他」

が顕在化している。つまり、中国語の代名詞の出現は節の従属度と関係なく、文の接続関係の構築の方が重要だと考えられる。また、登場人物が一人の場合曖昧ではなくなるため、本稿では登場人物が一人の場合に用いられる中国語代名詞の出現が、接続表現または接続相当表現に当たるかどうかを検討する。

テキストにおける中国語の三人称代名詞の顕在の実態を調査するため、日本語の小説『ナミヤ雑貨店の奇跡』とその中国語訳文を素材として、例文を採集する。小説は書き手が様々な手法を使うことで構築された複雑な物語の世界であるため、主語代名詞顕在・省略現象がよく見られる。小説『ナミヤ雑貨店の奇跡』を分析の素材として選んだのは、登場人物の多さ及び小説の適切な長さにより考察しやすいからである。そこで、本稿では小説における地の文を対象として、文章における中国語の代名詞主語顕在について考察する。分析方法としては、三人称代名詞主語・主題省略と顕在の例文をデータとして、それぞれ登場人物の数によって分類する。本稿では中国語における三人称代名詞とは、“他（彼）”“她（彼女）”及びその複数形“他们（彼たち）”“她们（彼女たち）”を指す。

## 2. 『ナミヤ雑貨店の奇跡』の考察

以下は、小説『ナミヤ雑貨店の奇跡』とその中国語訳文から収集した三人称代名詞主語のデータで、それぞれ登場人物の数ごとに両言語に見られる三人称代名詞主語の使用状況を<表1>のように示している。

<表1：登場人物の数別から見る三人称代名詞主語の使用状況>

三人称代名詞主語の数	登場人物＝1人	登場人物＝2人	登場人物≧3人	合計
中国語	166	66	15	247
日本語	15	13	8	36

表1から、日本語のテキストでは三人称代名詞があまり使用されていないのに対し、中国語テキストでは三人称代名詞に訳されている用例が多いことが明らかになっている。登場人物の数によって、両言語間で代名詞主語が顕在化する数には大きな差があることが分かる。登場人物が一人の場合、対象人物は明確であり、先行詞が後節に対して持つ連続性が最も強く、中国語では代名詞主語が顕在化個数は166である。一方、日本語では代名詞主語が顕在化する個数は15だけである。これは、日本語において省略できる代名詞主語が、中国語では顕在的に現れていることを示唆している。

表1から、中国語と比べて日本語では省略が強く好まれることが分かる。砂川（1990）は、前後の文の繋がりに何らかのギャップが生じた場合に主題となる主語が顕在化しやすくなる、と述べている。砂川（1990）はこれに基づいて主語が顕在化するパターンを取り出し、

その原因を分析している。これについては、本稿で扱う小説でも次のような例が見られる。

- (3) a. ① 朝の空気を吸ってくる、といって晴美は家を出た。② 自転車に跨り、“お盆休みの時と同じコースを走った。③ やがて『ナミヤ雑貨店』の前に着いた。④ ひと昔の雰囲気を感じた商店は、静かにじっと晴美を待っていていたように見えた。⑤ 彼女<sup>iii</sup>は脇の路地に入った。

(3a) は、書き手の視点の流れによって、空間も転換している例である。① から④ までは晴美の動きをめぐって描写している。そして、① から③ にかけて、時間の継起順序が存在する。しかし、④ はそれと全く関係なく、その場所から外れ、空間が変わる。つまり、時間的にも、空間的にもギャップが生じてしまうのである。従って、② と③ で省略された主語が維持しにくくなり、その結果、⑤ で代名詞主語・主題が顕在化する。このような時空間的なギャップが出てくる場合、元の主語を維持していくために、主語を再び提示する必要がある。時空間的なギャップによって、中国語においても、日本語と同じく、代名詞主語が顕在化される。中国語訳文 (3b) を見てみよう。

- b. ① “我去呼吸呼吸早上的空气。”说完晴美出了家门。② 骑自行车，她<sub>1</sub>依然沿着孟兰盆节假日时的路线前行。③ 浪矢杂货店很快到了。④ 笼罩在古旧气息中的店铺，仿佛在静静地等待着晴美。⑤ 她<sub>2</sub>走进店旁的小巷。

中国語の訳文では、先行詞「晴美」は一つだけ現れている。後節②と⑤で代名詞主語「她」が顕在化している。⑤の「她」は日本語と同じく、時空間的なギャップによって現れている。しかし、中国語においては、②の「她」も顕在化している。日本語では前項が連用形でつながれることによって、意味的に動きのある継起関係が表されている。一方、中国語では代名詞主語を使って、文を接続している。この点について、本稿の文頭で言及したように、日本語の前後節の従属度が低い場合でも、中国語三人称代名詞「他」が顕在化するため、代名詞の出現は文の接続表現の役割が働いている、と言えるだろう。日本語においては、節と節を一定の意味関係や論理関係のもとに結びつけて文脈を展開する際に、接続表現が重要な役割を果たしている。それに対して、中国語の複文の節間関係は、語彙的な要素を用いて前後の言葉を関連づけることが多く、接続表現が欠如しても通じる場合が多い。

- (4) a. 有 什么 困难, 我们 一定 帮您 解决。  
ある 何か 困難 我々 必ず 手伝う 君 解決  
何か困ったことがあれば、私たちは必ずお力になります。

(刘月华・潘文娛・故韡 1983; 井上 2003: 55)

- b. ① 你 说 得 慢 点 儿, ② 我 能 听 懂, ③ 说 得 快 了, ④ 我 听 不 懂。

あなた 話す de 遅く 少し 私 可能 聞き取る 話す de 速い ASP 私 聞き取れない

ゆっくり話してくれれば聞き取れるが、はやく話されると聞き取れない。

(井上 2003: 57; 番号は筆者作)

(4a) (4b) のように、中国語においては接続表現なしに文を繋ぐことができる。しかし、日本語の訳文においては、前後節の間に接続表現がないと、条件文にならない。仮定の意味を表す「ば」をつけ、さらに接続表現を適宜補うことによって、前後節の条件関係を表している。中国語では、疑問詞「什么」を用いて意味的に仮定を示すことができるため、(4a) では「困難」に「什么」がつくことで不確定性を表し、条件や仮定を示している。

(4b)の中国語文では、接続表現がなくても①と②及び、③と④の間にも「仮定—帰結」という関係が成立する。さらに、①と②及び③と④が表している事態の間に対比の意味が読み取れるので、接続表現がなくても逆接の意味を表すことができる。しかし日本語の場合、仮定を表す「ば」、条件を表す接続助詞「と」、逆接を表す「が」がないと、文と文の間の論理関係を表すことができない。大河内 (1967) は中国語の複文の連接関係を言語の外部形式とどのようにつながっているのかを分析し、複文の節どうしの間に存在する意味関係を考察している。大河内 (1967) は、明示的な接続形式のない複文において、主語の有無は節の接続に関わっている、と指摘している。

- (5) a. (我敢撒谎吗? 昨天凌云的大哥来信说:) 凌云嫂子也有了工作。每月可以多给我十块钱。

手紙でいつてきているように、嫂に仕事のできたので…

- b. 有了工作。她每月可以多给我十块钱。

仕事のできたなら、彼女は…

(大河内 1967: 3; 下線は筆者作)

(5a) の中国語を日本語に訳すと、「手紙でいつてきているように、嫂に仕事のできたので…」という意味になる。すなわち、前節は原因や理由を表している。後節は、「毎月十元をもらえる。」と訳すことができ、「結果」となる。つまり、因果関係である。それに対して(5b)では、文頭の「凌云嫂子」を主語として明示せず、後節の始めに「她」を補うことにより、「仕事のできたなら、彼女は…」といった条件関係になる。つまり、中国語では、複文の間では意味関係が変わると、代名詞主語が出現する可能性があるということである。

- (6) a. 多 读 书 多 懂 道理。

多く 読む 本 多く 理解する 道理

よく勉強すれば道理に詳しくなる。

b. 他 多 読 書, 多 懂 道理。

彼 多く 読む 本 多く 理解する 道理

彼はよく勉強したので、よく物を知っている。

(大河内 1967: 3; グロスが筆者作)

大河内 (1967) によれば、(6a) は主語が明示されていないことから、一般的な命題について述べた条件文であるといえるが、(6b) では、代名詞主語「他」が明示されているため、前後の節は因果関係として扱われる。このように代名詞主語を補うかどうかにより、前後の節の意味関係が変わってくる。つまり、代名詞主語の有無は文接続の意味関係と大きく関わっていることが分かる。

譚 (2015) は中国語のゼロ照応の特徴及びその働きについて検討しているが、その中で、次の例文を取り上げている。

(7) 有一次, 齐景公陪茶戏耍, (Ø<sub>1</sub>) 为了让爱子高兴, 他口里衔根绳子, (Ø<sub>2</sub>) 扮作老牛的样子, (Ø<sub>3</sub>) 让茶骑着, 牵着玩。不料, 孩子脚下打滑跌倒, (Ø<sub>4</sub>) 把齐景公的牙齿拉断了。

ある日、齊景公は茶と遊んでいた。愛息子に喜んでもらうために、口に紐をくわえ、牛に扮して乗らせたり、引っ張らせたりした。思いもかけず、息子が足を滑らせて転んでので、齊景公の歯がぬかれてしまった。

(譚 2015: 26; 下線は筆者作)

(7) では、登場人物が一人の場合、Ø<sub>1</sub> から Ø<sub>3</sub> までの所で省略された主語は、主語・主題「他/齊景公」を指す。また、Ø<sub>4</sub> のところで省略された主語は、すぐ前の主語である「孩子」を指す。譚 (2015: 26) はその原因について「ゼロ照応表現は話題の維持、連続機能を持つため、文章に強い連続性と繋がりを与えられるので読み手が情報の認知をしやすい」と述べており、主語・主題が省略されることによって、文と文の間に連続の機能を果たしている、ということを主張している。本稿で採取した例文の中には、次の例文のように、登場人物が一人のみの場合において、三人称代名詞主語「她」が5回用いられる例文があった。

(8) a. 又读了一遍写好的信, 确定没有问题后, 她将信纸装进信封。信纸和信封都是为了今天这封信特地买的。收拾打扮花了些时间, 开车离开家门时, 已经接近十点了。她一边小心不要超速, 一边踩下油门。约两个小时后, 抵达了目的地附近。她本来打算直接去浪矢杂货店, 但这时距离零点还有一会儿, 她便决定先去田村家放下行李。今晚她准备在那里过夜。

b. 書き上げた手紙を読み返し、ミスがないことを確認してから封筒に収めた。便箋と封筒は、この日のために買ったものだった。支度にあれこれと時間がかかったため、車で自宅を出た時には十時近くになっていた。スピード違反に気を付けつつ、アクセルを

踏んだ。約二時間後、目的地の近くまでやってきた。直接「ナミヤ雑貨店」に向かうつもりだったが、午前零時までは少し時間がある。先に田村邸に荷物を置いておくことにした。今夜は、こっちに止まる予定なのだ。

(8a) では登場人物が「晴美」のみの場合、中国語に訳すと、代名詞主語「她」が5回顕在化している。ここで、全ての主語『她』を省略してみると、次のようになる。

- c. 又读了一边写好的信，确定没有问题后，将信纸装进信封。信纸和信封都是为了今天这封信特地买的。收拾打扮花了些时间，开车离开家门时，已经接近十点了。一边小心不要超速，一边踩下油门。约两个小时后，抵达了目的地附近。本来打算直接去浪矢杂货店，但这时距离零点还有一会儿，便决定先去田村家放下行李。今晚准备在那里过夜。

a と c を比較すると、a では「装进」、「小心」、「打算」、「決定」、「准备」という一連の動きを示す前後の文の間に時間的な間隔が存在するため、中国語では代名詞主語を省略すると、その動きが誰かしているのかが不明確になる。c では、代名詞主語「她」が明示されないために、前後の文の内容的な繋がりが非常に弱く、意味のまとまりのある完全なテキストと見なすことができないことが分かる。つまり、主語を省略すると、前後の文の内容的な繋がりが非常に弱く、意味のまとまりのある完全なテキストと見なすことができないので、文章に強い連続性と繋がりを与えられない。従って、本稿では譚 (2015) の観点とは異なり、主語が顕在化しないと、話題の維持、連続機能を保てないという立場を取る。中国語において顕在化している三人称代名詞主語は、前節と後節を結合させる一種の接続表現としての役割をもつ、と筆者は考える。

ここまで挙げた例文から分かるように、中国語は日本語とは異なり、接続表現なしでも文と文の間の意味関係を表すことができる。そのためには、テキストの中で三人称代名詞が主語として用いられ、接続詞と接続詞相当句、及び接続助詞の使い方が文の展開に沿って示される必要がある。さらに、中国語においては、代名詞主語を補うことによって、単文が複文に変わる例もある。

- (9)<sup>iv</sup> a. 我有个弟弟今年考大学。

私 いる 一つ 弟 今年 受ける 大学

私には今年大学受験を受ける弟がいる。

- b. 我 有 个 弟弟，他今年 考 大学。

私 いる 一つ 弟 彼 今年 受ける 大学

私には弟がいて、彼は今年大学受験を受ける。

(9b) では、「弟弟」の代名詞主語「他」が後節の文頭に出現する。単文であった (9a) は、(9b) において複文に変わる。ここで、代名詞主語「他」は前後節を接続する役割を果たし、並列の意味を表す。この例文では、代名詞主語「他」がなければ複文にならない。なお、中国語の複文には、「有標識 (接続表現を用いるもの)」のものや、「無標識 (接続表現を用いないもの)」のものがある。次に、有標識と無標識文それぞれについて例文を挙げ、対照と分析を行う。

### 3. 「有標識」における対照と分析

(10) 虽然有备用钥匙,他还是选择敲门。

鍵もかかっていた。合鍵はもっているが、**●** ノックすることにした。

(10) は譲歩関係を表す例である。日本語の逆接を表す接続表現「が」は譲歩関係を示す、「虽然…」と訳される。(10) において、「虽然有备用钥匙」(合鍵はもっている) という事態と「ノックする」という事態の間にずれが生じる。この点について、Li and Thompson (1979) は中国語の談話レベルの三人称代名詞の使用について調査を通して、次の結果を取り上げている。

(11) a. 这王冕天生聪明

This Wang-mian was gifted,

b. 年纪不满二十岁

(6%) was not more than twenty years of age,

c. 就把那天文, 地理, 经史上的大学问无一不贯通

(2%) had already mastered everything in astronomy, geography, and classics,

d. 但性情不同

however, (76%)<sup>v</sup> had a different personality

(Li and Thompson 1979 : 323; 太字は筆者作)

(11d) は、前後節の間に逆接を表す「但」という接続表現を用い、代名詞の出現率は 76% を占めている。Li and Thompson (1979 : 323) は「時間を表すフレーズあるいは対比の意味を表す「但」の後に、前後節の間に接続表現を表す代名詞がよく補われている<sup>vi)</sup>」と述べており、中国語の代名詞は、前後の文の間に情報の齟齬が生じた場合に常に出現すると示している。つまり、代名詞主語の出現は文の前後の繋がりが弱い場合における接続表現相当の役割を果たしていると考えられる。



#### 4. 「無標識」における対照と分析

- (12) 然后, mm...坐下以后, 他觉得有点...有点累, 有点饿[?/Ø/他/就]想嗯, 那我看一看我从机器猫的口袋里拿了些什么东西出来呢。”

それから少し休むと、(彼は) ちょっと疲れてお腹がすいたと感じ、[?/Ø/彼は/すぐに]「よし、じゃあドラエもののポケットから何を持ってきたか見てみよう」と思いました。

(柴田 2013: 48-50; 下線は筆者作)

柴田 (2013) は、日中両言語の代名詞の出現に関する調査を行い、例文 (12) のような場合、三人称代名詞「他」あるいは「就」を用いれば自然な文であるが、「他」も「就」も置かない場合、非常に不自然な文になると指摘している。つまり、代名詞主語の顕在は「就」と同様に、「時間レベル」の個別的事態を表す文の接続を補う機能を担っていると言える。しかし、柴田 (2013) 研究は、「就」を使って接続詞を検討しているにとどまり、中国語の主語の顕在が文接続を補うという論証は不足していると言える。次に、三人称代名詞「他」を使っているが、接続表現を使わない例を挙げる。

- (13) 贵之突然想起一件事, 当下穿过马路, 走进杂货店旁边的通道。来到后门, 他打开牛奶箱的盖子, 往里看去。

ふと思いついたことがあり、貴之は通りを渡り、店の脇の通路に入っていった。裏に回り、Ø 牛乳箱の蓋を開けてみた。

- (14) “我去呼吸呼吸早上的空气。”说完晴美出了家门。骑上自行车, 她依然沿着孟兰盆节假期时的路线前行。

朝の空気を吸ってくる、といって晴美は家を出た。自転車に跨り、Ø お盆休みの時と同じコースを走った。

(13) (14) は、いずれも中国語の接続表現を使わない例であるが、その中国語に対応するすべての日本語原文では、連用形が用いられることにより前後節が結ばれており、意味的に動きのある前後関係が表されている。(13) において、「裏に回ること」と「牛乳箱の蓋を開くこと」のつながりが中国語に訳されると、間に代名詞主語が出現していると分かる。この時、中国語では、三人称代名詞が接続表現の役割を果たしている。(14) において、「自転車に跨ること」と「走ること」をつなげる際、中国語訳ではやはり代名詞主語が出現していることが見られ、中国語の三人称代名詞が接続表現の役割を果たしていると分かる。

(15) 克朗在东京站上了列车。车厢里很空，他一个人占据了能坐四人的包厢，脱掉鞋子，把脚搭在对面的座位上。

東京駅で列車に乗った。車内はすいていて、四人がけのボックスシートを一人で  $\emptyset$  占領できた。靴を脱ぎ、向かい側の座席に足を乗せた。

(15) の日本語の原文では、「車内が空いている」という現実の状況と「ボックスシートを占領する」という結果の間に「て」という連続体でその因果関係を表している。一方中国語の訳では、接続表現を使わず、代名詞主語の存在によって前後節を繋げている。

(16) “晚上好。” 贵之低声说。没人回应，他不以为意地径自脱鞋进门。

「今晚は」、と低く声をかけた。返事はなかったが、 $\emptyset$  構わずに進んだ。

(16) では、「声をかけたら返事をもらえて、それから進むこと」という推論と「返事をもらえなくても進むこと」という事実との対立を表す。日本語の原文では、「が」を使って文を繋げているのに対して、中国語の訳では接続表現を使わず、代名詞主語「他」を用いて前後節を繋げている。

## 5. 本稿のまとめ

本稿では、日本語の小説『ナミヤ雑貨店の奇跡』とその中国語訳を素材として、登場人物の数ごとに例文を採集した。登場人物が一人の場合でも、二、三人の場合でも、中国語の三人称代名詞の出現頻度はかなり高いことが分かった。中国語の代名詞主語は、指示表現だけではなく、接続表現という役割も担っている。日中両言語を対照すると、代名詞主語の顕在は日本語では連用形により連接されるような場合、中国語では代名詞主語が補われることが分かった。つまり、中国語の代名詞主語が顕在化する場合、従属度は関係なく、文の接続関係の構築の方が重要であると考えられる。また中国語では、接続詞を持っている複文と接続詞を持っていない複文において、いずれも代名詞主語が出現したことが観察された。つまり、中国語では代名詞主語の出現によって、主題を維持し、前後節の間に強い連続性が作り出されると考えられる。しかし、今回の結果は限られたデータによるもののため、多少作者のスタイルや訳者の手法に影響され、偏りが生じる可能性がある。今後は、より多くのデータを収集し分析していきたい。特に、日本語でどのような接続表現の時に、中国語では単文になって代名詞を使うのかということについて、具体的な数値を統計的に検討し、慎重な考察を行う必要があると思う。

## 用例出典

- 東野 圭吾 (2014) 『ナミヤ雑貨店の奇跡』 東京: 角川文庫.  
東野 圭吾 (著) 李 盈春 (訳) (2014) 《解忧杂货店》 海口: 南海出版社.

## 参考文献

- 井上 優 (2003) 「文接続の対照—日本語と中国語—」『言語』32(3), 54-59.  
大河内 康憲 (1967) 「複文における分句の連接関係」『中国語学』176, 1-12.  
柴田 奈津美 (2013) 「日中対照実験からみる代名詞主語とその省略」『言語情報科学』11, 38-50.  
砂川 有里子 (1990) 「主題の省略と非省略」『文藝言語研究・言語篇』18, 15-34.  
成田 徹男 (1983) 『副用語の研究』 東京: 明治書院.  
日本語記述文法研究会 (2008) 「現代日本語文法」 くろしお出版.  
籾堂 明保・相原 茂 (1985) 『新訂 中国語概論』 東京: 大修館書店.  
刘 月华・潘 文娛・故 韡 (1983) 《实用现代汉语语法》 北京: 外语教学与研究出版社.  
譚 晰 (2015) 「中国語におけるテキストの結束性をもたらすゼロ照応について」『お茶の水女子大学中国文学会報』34, 19-33.  
邢 福义 (2001) 《汉语复句研究》 北京: 商务印书馆.  
徐 曙 (2010) 「中日日訳における人称代名詞の省略と顕現」『日本言語文化研究』14, 64-70.  
Li, Charles N. and Sandra A. Thompson (1979) Third-person pronoun and Zero Anaphora in Chinese Discourse. In Talmy Givón (ed.), *syntax and semantics12: Discourse and Syntax*. New York: Academic Press, 322-335.

---

<sup>i</sup> 主節に対する従属または依存の度合いを、従属度という。(日本語記述文法研究会 (2008:7))

<sup>ii</sup> 中国語の訳文と対応して、「她」(彼女)が現れている。この処を(3b)の「她<sub>1</sub>」で示す。

<sup>iii</sup> 中国の訳文と対応して、「她」(彼女)も現れている。この処を(3b)の「她<sub>2</sub>」で示す。

<sup>iv</sup> 筆者による作例である。

<sup>v</sup> The blanks are filled in each case by percentages in parentheses indicating the percentage of respondents who inserted a pronoun at that point. (Li and Thompson (1979:322))

<sup>vi</sup> Conjoinability between two clauses is greatly impaired when the second clause is marked with adverbial expressions such as time phrases or contrastive morphemes like however, but, etc. (Li and Thompson (1979:322))